

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業No.46-1

記入日 平成25年5月13日

点検日 平成25年5月24日

事務事業(予算)名	公園維持管理に関する経費		作成課・係	公園緑地課公園維持係				
政策名	2.2 快適な暮らしの環境をつくります		施策	2.2.2 快適な公園・緑地環境	基本事業	2.2.2.2	パートナーシップによる緑づくりと保全	
関連計画・根拠法令等	①都市公園法 ②鎌ヶ谷市都市公園条例 ③鎌ヶ谷市都市公園施行規則 ④							
事業区分	継続	前回総合評価	7.拡充	実施計画掲載	無	行革推進対象	無	事業実施主体
関連類似事業名			予算(款)		予算(項)		予算(目)	
							5	0101

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	鎌ヶ谷市が管理する都市公園ふれあいの森		①都市公園数	業務取得
			②ふれあいの森数	業務取得
	(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典
都市公園及びふれあいの森の清掃、除草、樹木剪定、施設の管理及び修繕	①管理委託費		業務取得	
	②報償費		業務取得	
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	成果指標(基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
市民と協働で管理する市民参加型の維持管理公園が増加していくことで、市民の公園に対する現状と管理について理解が深まり、来園者に対して気持ちの良い公園を提供できる。また、管理コストの低減を図ることができる。		①協働管理の公園数	業務取得	
		②協働管理のふれあいの森数	業務取得	
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
誰もが快適で安全な空間として公園を利用できるよう、適正で効率的な維持管理に努めるとともに、地域住民とのパートナーシップにより、地域にあった管理手法を検討し、快適な公園・緑地環境の整備をめざす。		①協働管理率	業務取得	
		②市民一人当たりの公園面積	業務取得	

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(年度) 今後の計画総額	
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額		
コスト・指標	(1)総事業費	自動計算	千円	91,876	127,335	119,417	124,242	141,967	0
	①国庫支出金		千円			3,621			
	②県支出金		千円						
	③市債・その他財源		千円						
	④一般財源		千円	91,876	127,335	115,796	124,242	141,967	
	(2)総所要時間	0.5単位	時間/年	18,451	18,328	18,367	18,376	0	0
	①+②+③	自動計算							
	①正職員(時間内)		時間/年	14,000	12,000	10,000	9,760		
	②正職員(時間外)		時間/年	451	328	367	616		
	③非常勤職員		時間/年	4,000	6,000	8,000	8,000		

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	箇所	162	165	171	179	180
②		箇所	8	8	8	8	8	
③								
(2)活動指標	①	千円	60,355	66,954	73,556	74,037	77,526	
	②	千円	605	614	665	915	988	
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果指標等	①	箇所	29	27	30	36	37	
	②	箇所		1	1	1	1	
	③	人	26	24(うち団体:1)	27(うち団体:2)	32(うち団体:3)	32(うち団体:4)	
(4)施策成果指標	①	%	17	17	17	20	20	
	②	m	2.12	2.13	2.25	2.29	2.25	
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	都市公園数の増加と施設の老朽化に伴い、維持管理面で経費が増え続ける。行政だけの管理にも限界があるため、市民の参加協力を得ながら管理する必要がある。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	公園数の増加と既存施設の老朽化が進んでいることに加え、施設への悪戯も増加している。このため、維持管理費が不足し、計画的な修繕が実施できない。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	少子高齢化の進展に伴い、公園利用及び管理への参加において、高齢者へ移行していくものと予想される。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	公園利用者によるマナーやルールに反する行為についての苦情や要望が多い。また、既存施設の老朽化に伴う修繕要望も多い。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 地元管理で愛着もてる公園が増えるような協働管理の仕組みを整備するため。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 公園は、市民の憩い、レクリエーションの場だけではなく、防災面、自然、生態系の保全も含めた良好な環境形成の場であり、今後の整備や保全に対して、市民意識の高揚に努め、市民参加を促進していくことが重要である。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 市民参加の維持管理については、サポーター制度を核とする協働のシステムを整備し、多くの市民が参加できるよう原則公募とする。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 市民との協働で行うことにより、地域に密着した親しみやすい公園管理が行え、地域住民参加の一助にもなっている。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎではないか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 公園管理については、専門的な部分については業者委託とし、日常管理的な面においては地域住民に委ねる事で、効率的で経済的な管理の実現が保たれる。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 専門的な部分は業者に委託し、日常管理的な部分については、地域住民の参加を増やしていく。身近な公園を自分たちの手で管理することにより、公園に対する愛着と意識の高揚が期待できる。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	市民との協働管理は、委託業者との業務契約とは異なり、各サポーターの自発性に任せている部分が多い。今後は、サポーターとのコミュニケーションを大切にし、各公園の状況などに応じた管理を行い、市民に対してより良好な公園を利用していただく。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	各公園の状況などに応じた管理を行うことができ、良好な公園を利用してもらうことができた。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	引き続きサポーターとのコミュニケーションを大切にし、各公園の状況などに応じた管理を行い、市民に対してより良好な公園を利用していただく。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業No.46-2

記入日 平成25年 5月13日

点検日 平成25年 5月24日

事務事業(予算)名	緑化推進に要する事業(ふれあいの森設置・整備)事業		作成課・係	公園緑地課みどり推進係				
政策名	2.2 快適な暮らしの環境をつくります	施策	2.2.2 快適な公園・緑地環境	基本事業	2.2.2.1 花とみどりのふれあい空間づくり			
関連計画・根拠法令等	①鎌ヶ谷市みどりの条例 ②		③	④				
事業区分	継続	前回総合評価	7.拡充	実施計画掲載	無	行革推進対象	無	事業実施主体
関連類似事業名		予算(款)		8	予算(項)		4	予算(目)
							5	予算コード
								0201

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	500㎡以上の良好な民有林を対象とする。	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
				①山林面積	業務取得
				②	
				③	
	(2) 事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	ふれあいの森は、市民に森林レクリエーション及び保健休養の場を提供することを目的とし、設置期間を5年として土地所有者と使用貸借契約を締結する。	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典
				①ふれあいの森設置数	業務取得
				②ふれあいの森面積	業務取得
				③	
	(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	市民が利用できる公開された緑地を確保すると共に、土地所有者の土地維持管理に係る負担を軽減する。 ふれあいの森面積率 = ふれあいの森面積 ÷ 山林面積 × 100	成果指標 (基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典
				①ふれあいの森面積率	業務取得
				②	
				③	
	(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	市内の良好なみどりの保全を図ることで、快適な公園・緑地環境の整備につながります。 市民一人当たりのふれあいの森面積率 = ふれあいの森面積 ÷ 年度末人口 (108,814人)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典
				①市民一人当たりのふれあいの森面積	業務取得
				②市民一人当たりの公園面積	業務取得
				③	

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(27年度) 今後の計画総額
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	
(1)総事業費 自動計算		千円	10,371	110,587	30,722	10,171	15,574	0
	①国庫支出金	千円						
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円						
	④一般財源	千円	10371	110587	30722	10171	15574	
	(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間/年	280	280	280	280	280	0
	①正職員(時間内)	時間/年	280	280	280	280	280	
	②正職員(時間外)	時間/年						
	③非常勤職員	時間/年						

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	m	1,534,828	1,523,006	1,495,560	1,469,217	1,465,920
②								
③								
(2)活動指標	①	箇所	8	8	8	8	8	
	②	m	35,207	34,200	34,200	34,200	36,067	
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果 指標等	①	%	2.65	2.67	2.36	2.33	2.46	
	②							
	③							
(4)施策成果指標	①	m	0.38	0.37	0.32	0.33	0.33	
	②	m	2.12	2.13	2.25	2.29	2.27	
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	市民に森林レクリエーション及び保健休養の場を提供することを目的に、昭和63年度から、ふれあいの森の設置事業を開始した。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	都市化に伴う開発が多くなっており、民有樹林地の減少が見られる。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	現在、市がふれあいの森の管理を行っているが、今後は自治会や市民ボランティアなどによる管理体制についての検討が必要である。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	土地所有者の高齢化に伴い、相続等により樹林地を手放さなければならない事例が出てきており、相続税対策が求められている。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 鎌ヶ谷市みどりの条例に基づき、ふれあいの森の設置と管理を行っている。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 ふれあいの森の設置は、本市が目指している、みどりにつまれた快適な街の実現と、うるおいのある環境の創設を図ることができる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 土地所有者の土地維持管理費の削減を図ると共に、近隣住民の憩いの場を提供することができる。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 鎌ヶ谷市みどりの条例にあるみどりにつまれた快適な街を実現するための施策であるため。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎではないか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 公園維持管理と同様に、ふれあいの森の維持管理を実施しているため、住民要望を受け入れながらコスト面や効率性も考えている。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 平成22年度に創設された吸収源対策公園緑地事業(交付金事業)を活用し、公園として整備を図る計画を策定しているため。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	吸収源対策公園緑地事業(交付金事業)の創設が図られたため、交付金事業を活用するための施策を考えていく。 事業仕分けにおいて、ふれあいの森をPRすることになりました。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	結論が出ていない状況ではあるが、地権者に対する用地交渉を継続している。 市ホームページにて、ふれあいの森位置図を掲載しました。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	吸収源対策公園緑地事業(交付金事業)を活用し、ふれあいの森の用地取得ができるよう地権者との交渉を行っていく。 ふれあいの森マップ(ウォークラリーなどの提案コース)を作成する。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業(予算)名	地区公園整備事業 (粟野地区公園整備事業)		作成課・係	公園緑地課みどり推進係						
政策名	2.2 快適な暮らしの環境をつくります		施策	2.2.2 快適な公園・緑地環境	基本事業	2.2.2.1 花とみどりのふれあい空間づくり				
関連計画・根拠法令等	①都市公園法		②	③		④				
事業区分	継続	前回総合評価	7.拡充	実施計画掲載	有	行革推進対象	有	事業実施主体		
関連類似事業名			予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	5		
						3001	業開始年度	平成15年度以前	事業終了予定年度	平成33年度以降

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	新鎌ヶ谷地区に隣接する粟野地区にある粟野の森及びその周辺の斜面地や休耕田(全体面積:約8.3ha)の区域		①粟野地区公園事業認可面積	業務取得
			②	
		③		
(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典	
(第1期整備事業) 平成15年度~平成25年度:都市公社が取得した樹林地(約5.1ha)及び、駐車場予定地(0.5ha)を都市・地域整備局所管の交付金を充当して用地を取得し、市民の意見を取り入れた市民協働による実施設計及び施設整備並びに維持管理方法の検討を行う。 (第2期整備事業) 平成26年度から平成30年度:斜面地や休耕田(約2.7ha)の整備を行う。		①第1期用地取得面積	業務取得	
		②		
	③			
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	基本事業成果指標等	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
粟野地区に残された市内最大の貴重な樹林地及び隣接する谷津田の用地取得を行う。 整備区域内にある貴重な動植物の保護に努める。		①第1期用地取得面積	業務取得	
		②		
	③			
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
自然保全型の公園に整備し、市制記念公園及び、(仮称)総合運動公園と一体的となる「森とレクリエーションの拠点」として整備し、緑化の推進を図る。 市民一人当たりの公園面積=年度末都市公園面積÷年度末人口(108,814人)		①市民一人当たりの公園面積	業務取得	
		②市民一人当たりの公園面積(公園予定地の用地取得分含む)	業務取得	
	③			

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(29年度)今後の計画総額
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	
(1)総事業費 自動計算	①国庫支出金	千円	127,258	150,507	418,424	35,348	64,884	335,270
	②県支出金	千円	16,000	25,000	67,900	10,000	24,000	124,000
	③市債・その他財源	千円	103,400	123,900	135,800	17,800	28,800	178,200
	④一般財源	千円	7,858	1,607	214,724	7,548	12,084	33,070
	(2)総所要時間(0.5単位)	時間/年	1,510	1,510	1,510	1,510	1,510	7,550
	①正職員(時間内)	時間/年	1,480	1,480	1,480	1,480	1,480	7,400
	②正職員(時間外)	時間/年	30	30	30	30	30	150
	③非常勤職員	時間/年						

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	m		56,226.65	56,226.65	56,226.65	56,226.65
②								
③								
(2)活動指標	①	m ²		3,057.33	4,966.36	13,499.69	2,827.80	2,133.16
	②							
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果指標等	①	%		58	68	91	96	100
	②							
	③							
(4)施策成果指標	①	m		2.13	2.25	2.29	2.27	3.30
	②	m		2.42	2.50	2.41	2.51	3.30
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	平成15年2月に鎌ヶ谷市緑の基本計画が策定され、緑の将来像の中で、公園の位置づけが明確に示された。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	都市開発等による市内の樹林地の減少が目立つようになってきた。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	新鎌ヶ谷地区の街づくりが進展していく中で、市民にゆとりと安らぎを与える空間としての粟野地区公園の役割が高まっており、早期整備の要望が強い。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	粟野地区公園と隣接する谷津田の自然環境を活かした整備を望む声が多い。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 都市化に伴う緑地の減少及び、人口増加に伴う都市公園面積の不足を解消するため、都市公園法に定めるところによる都市計画事業として、市長が県知事の認可を受けて施行するものである。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。市民に安らぎと潤いの場を確保し、自然・生態系の保全等を図る観点から、「レインボープラン21」に掲げる快適な公園・緑地環境の整備を促進することができる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 粟野地区公園の整備に関する説明会や、勉強会での市民意見を踏まえながら、都市計画決定がなされている。平成24年度には、市民公募委員を含む懇談会組織を設置し、公園計画(案)を策定する懇談会(4回)を実施した。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 市制記念公園、粟野コミュニティセンターとの機能分担に配慮しながら、北部地区のレクリエーションの拠点として位置づける。また、事業計画の変更は、都市計画法上の手続きが必要となってくる。
	(5)効率性	4: 当てはまらない	(理由)コストがかりすぎではないか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 厳しい財政状況のため、まとまった用地購入ができない状況である。財政面の観点で負担可能状況を把握しながら、まとまった用地購入が可能であるかの検討が必要となっている。また、事業計画の変更には都市計画法上の手続きが必要となる。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 緑の基本計画における緑の将来像実現のため、市内に残された貴重な樹林地等を保全する施策を進める。将来の公園維持管理については、市民協働による方策を検討することが決まった。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	平成25年度中での一部開園を目指す。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	第一期整備計画区域の用地買収を実施した。また、粟野地区公園(第一期整備計画区域)の整備計画策定に当たり、住民協働による公園づくりをめざし粟野地区公園整備懇談会を設置し、整備計画(案)の策定作業を行いました。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	平成25年度中での一部開園(第一期整備計画)を目指す。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: 当てはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業No.46-4

記入日 平成25年 5月13日

点検日 平成25年 5月24日

事務事業(予算)名	街区公園整備事業 (井草橋公園、川慈公園他)			作成課・係	公園緑地課みどり推進係					
政策名	2.2 快適な暮らしの環境をつくります			施策	2.2.2 快適な公園・緑地環境	基本事業	2.2.2.1 花とみどりのふれあい空間づくり			
関連計画・根拠法令等	①都市公園法		②	③		④				
事業区分	新規	前回総合評価	実施計画掲載	有	行革推進対象	無	事業実施主体	3. 市	業開始年度 平成24年度	事業終了予定年度 平成27年度
関連類似事業名				予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	5	予算コード 3101

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	既設井草橋公園(2,561.91㎡)に隣接している広場(819.29㎡)の区域。川慈公園整備(1,439.44㎡)及び、吸収源対策公園緑地事業を活用し、保全林やふれあいの森から公園に変更する。	⇒	①井草橋公園面積	業務取得
			②川慈公園面積	業務取得
			③	
(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典	
井草橋公園の公園施設を整備する。 川慈公園の公園施設を整備する。	⇒	①用地取得面積	業務取得	
		②用地取得面積	業務取得	
		③		
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	成果指標 (基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
住民要望がある公園を整備する。	⇒	①用地取得進捗率(井草橋公園)	業務取得	
		②用地取得進捗率(川慈公園)	業務取得	
		③		
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
市内の公園を整備することで、快適な公園・緑地環境の整備につながります。 市民一人当たりの公園面積=年度末都市公園面積÷年度末人口(108,814人)	⇒	①市民一人当たりの都市公園面積	業務取得	
		③		

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(29年度)今後の計画総額
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	
コスト・指標	(1)総事業費 自動計算	千円	0	0	0	196,609	105,412	183,286
	①国庫支出金	千円					31000	59500
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円				194800	65800	105350
	④一般財源	千円				1809	8612	18436
(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間/年	0	0	0	280	280	0	
①正職員(時間内)	時間/年				280	280		
②正職員(時間外)	時間/年							
③非常勤職員	時間/年							

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	m					820
②		m ²					0	
③								
(2)活動指標	①	m ²					820	
	②	m					1,779	
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果指標等	①	%					100	
	②	%					0	
	③							
(4)施策成果指標	①	m ²					2.27	3.3
	②							
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	国土交通省所管の吸収源対策公園緑地事業(交付金事業)が新たに創設された。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	都市開発等による市内の樹林地の減少が目立つようになってきた。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	レインボープラン21に掲げる市民一人当たりの公園面積目標と、厳しい財政の中で取得できる公園面積を考慮しておく必要がある。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	地元自治会からの要望があった。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 都市化に伴う緑地の減少及び、人口増加に伴う都市公園面積の不足を解消するため、都市公園法に定める都市公園を整備するものである。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 市民の安らぎと潤いの場を確保し、自然・生態系の保全等を図る観点から「レインボープラン21」に掲げる快適な公園・緑地環境の整備を促進することができる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 地元自治会等から要望があり、市内部において検討した結果、事業化したものである。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 市民一人当たりの公園面積(平成27年度目標:3.3m ²)を定めている。
	(5)効率性	4: 当てはまらない	(理由)コストがかかりすぎているか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 地元自治会等からの要望があることから、厳しい財政状況の中で出来る範囲の事業を実施している。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 緑の基本計画における緑の将来像実現のため、今後も公園整備を実施する必要がある。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	新規事業のため該当なし。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	新規事業のため該当なし。
	(3)平成25年度に取り組む改革・改善内容	井草橋公園は、平成25年度の完成を目指す。 川慈公園は、平成25年度に用地購入を進める。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: 当てはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	m			2,752	2,752	2,752
②								
③								
(2)活動指標	①	千円				450	19,999	
	②							
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果 指標等	①	%			0	2	100	
	②							
	③							
(4)施策成果指標	①	m ²			2.25	2.29	2.27	
	②							
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	(仮称)総合運動公園緑道整備計画が定まり、防衛省所管の調整交付金の充当が可能となったことによる。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	緑道の必要性が認識されてきている。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	地域性、利便性等を考慮すると、より一層の市制記念公園の来園者増が見込まれる。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	総合運動公園構想の実現が望まれている。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 市制記念公園と陸上競技場を緑道で結ぶことで、利用者の利便性を高めることができる。
	(2)目的妥当性	2: 普通	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 (仮称)総合運動公園構想及び粟野地区公園整備事業との整合が図られている。
	(3)公平性	2: 普通	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 市制記念公園と陸上競技場を結ぶことは必要なことである。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 当該地は、新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業地との近隣地となることから、今後の地価動向を推測すると買い取り時期を延ばすことはコスト高になると考えられる。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎているか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 当該地は、新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業地との近隣地となることから、今後の地価動向を推測すると買い取り時期を延ばすことはコスト高になると考えられる。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 市制記念公園と陸上競技場を連絡する緑道を整備することにより、粟野地区公園整備事業との連携も含め一層の利用者の利便性を図る。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	平成24年度の緑道完了に向け取り組む。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	整備計画に基づいた緑道整備(管理柵設置工事、排水整備工事、園路整備工事)を実施しました。
	(3)平成25年度に取り組む改革・改善内容	平成25年度事業としての緑道整備に取り組む。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業No.46-6

記入日 平成25年5月13日

点検日 平成25年5月24日

事務事業(予算)名	公園施設長寿命化事業		作成課・係	公園緑地課公園維持係			
政策名	2.2 快適な暮らしの環境をつくります		施策	2.2.2 快適な公園・緑地環境	基本事業	2.2.2.1 花とみどりのふれあい空間づくり	
関連計画・根拠法令等	①都市公園法 ②鎌ヶ谷市都市公園条例 ③鎌ヶ谷市都市公園施行規則 ④						
事業区分	前回総合評価	実施計画掲載	有	行革推進対象	無	事業実施主体	3.市
関連類似事業名	予算(款)	予算(項)	予算(目)	予算コード	3701	平成24年度	事業終了予定年度 平成33年度以降

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	鎌ヶ谷市内の公園施設(176公園:平成24年度当初)	①都市公園数	業務取得	
		②		
		③		
(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典	
公共施設の計画的な維持管理の方針や長寿命化対策を定め、公園施設の安全確保と機能保全を図りつつ、維持管理予算の平準化を図ることを目的とする。 平成24年度:公園施設調査 平成25年度:施設調査結果を基に長寿命化計画を策定 平成26年度~:長寿命化計画を基に維持管理を実施	①計画管理公園数	業務取得		
	②			
	③			
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	成果指標 (基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
今後進展する遊具等公園施設の老朽化に対して、適切な施設点検、維持補修等の予防保全管理の下で、既存施設の長寿命化対策及び安全対策の強化を進める。また、長寿命化計画を策定することにより、修繕・更新費用の平準化を図り、計画的な修繕・改築更新を行う。	①計画管理進捗率	業務取得		
	②			
	③			
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
今後進展する遊具等公園施設の老朽化に対する安全対策の強化を進めることにより、誰もが安心して利用できる都市公園の管理が推進され、快適な暮らしの環境をつくることことができる。	①市民1人当たりの公園面積	業務取得		
	②			
	③			

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(年度)	
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	今後の計画総額	
コスト・指標	(1)総事業費	自動計算	千円	0	0	0	6,090	7,959	0
	①国庫支出金		千円				3,000	3,000	
	②県支出金		千円						
	③市債・その他財源		千円						
	④一般財源		千円				3,090	4,959	
	(2)総所要時間	0.5単位	時間/年	0	0	0	240	0	0
	①+②+③	自動計算							
	①正職員(時間内)		時間/年				240		
	②正職員(時間外)		時間/年						
	③非常勤職員		時間/年						

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	箇所					176
②								
③								
(2)活動指標	①	箇所					176	
	②							
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果指標等	①	%					0	
	②							
	③							
(4)施策成果指標	①	m ²					2.27	
	②							
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	公園施設の老朽化が急速に進む中で、安全で快適な利用を確保するという都市公園本来の機能発揮が難しくなっていることが全国的な課題となっていることから、計画的な維持管理の取り組みを支援するため、国の制度として、公園施設長寿命化計画策定調査補助(都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業)が創設された。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	長寿命化計画を策定することにより、修繕・更新費用の平準化を図ることができ、計画的な修繕・改築を行うことができる。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	誰もが安心して利用できる都市公園の管理が望まれている。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ市が関与する必要があるのか？ 鎌ヶ谷市が管理する都市公園の施設である。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 今後進展する遊具等公園施設の老朽化に対する安全対策の強化を進めることにより、快適な暮らしの環境をつくることできる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 都市公園(176箇所)を対象としており、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安心して利用できる都市公園の管理が推進される。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？さらに成果指標を伸ばせないか？ 対象となる公園施設は、年々、老朽化が進んでいくものと考えられることから、計画的に修繕・更新を進めるためには必要である。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎているか？事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 修繕・更新費用の平準化を図ることができ、計画的に事業を進めることができる。また、対象施設の修繕・更新費用について、国の補助制度を利用することができる。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 子どもや高齢者をはじめ、誰もが安心して利用できる都市公園の管理が推進されることを念頭に、今後進展する遊具等公園施設の老朽化に対する安全対策の強化を進める。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	新規事業のため該当なし
	(2)(1)に基づく取り組み結果	
	(3)平成25年度に取り組む改革・改善内容	施設調査によって得られた劣化や損傷の進行状態を判断した上で、効率的な修繕・更新計画を策定する。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する